

2019年6月16日

福音書からのメッセージ

言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。

(ヨハネによる福音書 16 章 12 節)

聖霊降臨日の一週間後にあたるこの日曜日は、三位一体主日です。「父と子と聖霊」なる神さまのみ恵みが、わたしたちに与えられていることを覚える日です。

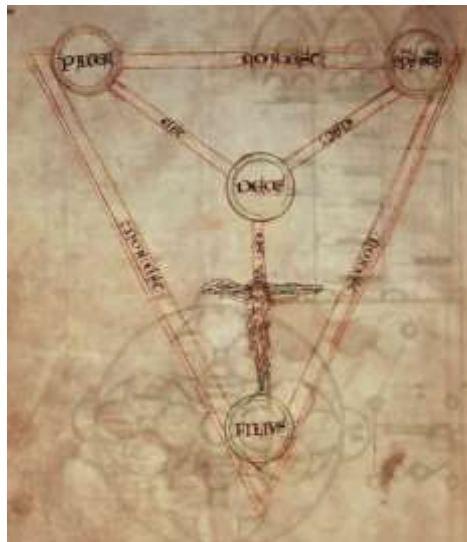
日本聖公会では教会暦に従って、聖書箇所が決められていきます。毎年同じようにイエス様の誕生を祝い、十字架を嘆き、墓の中のイエス様を覚え、復活を喜び、昇天、聖霊降臨を迫体験していきます。しかしそのことで、イエス様の様々な出来事が、当たり前のようになくなってはいないでしょうか。

今日のヨハネ福音書の 14~16 章には、イエス様の告別説教が書かれています。イエス様は十字架に向かわれる前に、弟子たちに別れを告げます。弟子たちには、不安や恐れが襲い掛かってきたことでしょうか。そして弟子たちは思ったはずです。「こんなはずではなかった」と。

今、わたしたちはどうでしょうか。復活節を終え、聖霊降臨日が過ぎ、三位一体主日を迎えています。毎年の流れのままに、わたしたちがこの主日を迎えているならば、それだけで終わってしまうでしょう。わたしたちの心が満たされ、何の恐れもなく、平安に毎日を過ごしているならば、それですべては大丈夫です。

しかし心にぽっかりと穴が開き、イエス様の存在が感じられない。まるで 2000 年前の弟子たちのように、「イエス様、どこへ行ってしまうのですか」、「わたしはどうなってしまうのですか」。こんなはずではなかった。その思いの中、今日を迎えられている方も、きっとおられると思います。

イエス様はその叫び声をあげる人たち



を、見捨てられたのでしょうか。愛する弟子たちに別れを告げ、あとは知らないと去って行ったのでしょうか。今日の聖書の中に、このような言葉

がありました。言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。

一見すると、とても冷たい言葉のようにも思えます。あなたたちに言ったところで、無駄だと言わんばかりのニュアンスを感じてしまいます。でもこの言葉の本来の意味は違います。あなたたちには理解できない、そのように訳されているところは、あなたたちには耐えられない、そのような意味を持つ言葉です。

ただでさえ動揺し、恐れと不安が心を支配している弟子たちに、これ以上なにを語るというのか。そんなことをしても、あなたたちは耐えることができないだろう。だからわたしは、あなたたちのために真理の霊を送るのだ。その言葉は、わたしたちの心にもきっと届いているはずです。

そしてイエス様が約束された聖霊はわたしたち一人一人に与えられ、わたしたちを導いてくれるのです。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>